



プール遊びが始まります。3階のプールから子ども達の楽しい声がたくさん聞こえてくることでしょう。夏は食欲が落ち睡眠不足になりやすいので、休息をしっかりとって元気に過ごせるよう体調管理には十分気をつけていきたいと思ひます。



夏に多い病気

プール熱（咽頭結膜熱）

38～39℃の高熱、目ヤニと充血、のどが赤く腫れるため食事が食べられないのが特徴です。登園停止の病気の一つです。

熱が下がり、目の症状がとれ、のどの炎症が収まり普通の食事が食べられるようになって2日間が経過すれば登園の許可をもらう目安になります。

手足口病

手のひら、足の裏、口の中に小豆くらいの水疱性発疹ができます。37～38℃の発熱が出ることもあります。

解熱後 1 日以上が経過し、口の中の水疱が治り普通の食事が食べられるようになれば登園は可能です。

ヘルパンギーナ

38～40℃の高熱、のどの奥に小さな水疱ができ食事が食べられないのが特徴です。

解熱後 1 日以上が経過し、口の中の水疱が治り普通の食事が食べられるようになれば登園は可能です。

夏かぜ

原因は腸管系に悪さをするウイルスによることが多く、発熱、下痢、口内炎が特徴です。

症状が治り普通の食事が食べられるようになれば登園は可能です。特に下痢便の中にはウイルスが含まれていることがあるため、しっかり治してから登園してくださいね。

熱中症

カラダが熱い、むずがる、頭やお腹を痛がる、嘔吐、多量の汗や汗が出なくなる、唇が渇く、おしっこが出ないなどが特徴です。

涼しい場所に移動しカラダを冷やしましょう。水分補給をします。活動的で元気があり、食事が食べられるようになれば登園は可能です。

*意識がはっきりしない時は救急車を要請しましょう。

*熱中症予防のために十分な睡眠と朝ご飯をしっかりと食べることが大切です。

とびひ（伝染性膿痂疹）

傷口から出た浸出液、あせも、湿疹、虫刺されなど皮膚トラブルを掻き壊すことで出た浸出液がカラダの他の場所に付くことで発疹が次々に現れ、あっという間に広がるのが特徴です。

カーゼやカットバンで浸出液が他の場所に付かないように保護します。広がり始めた場合は塗り薬や飲み薬が必要になりますので、直ぐ受診することをお勧めします。

*服で隠れない場所にとびひ（発疹）ができた場合は乾燥するまで登園を控えていただいています。

*いつもと違う様子が見られた時は、自己判断をせずに受診をしてくださいね。

蒸し暑い季節になりました。汗をかいたカラダは不快の原因ですし、あせも、湿疹など肌のトラブルが起きやすいので、毎日お風呂に入って清潔にしましょう。



園医の一言

急に暑くなり、熱中症で受診するお子さんがいます。子どもの熱中症では「おなかが痛い」と訴えることが多いようです。ご注意ください。 7月4日付

